VDRH-9000/9000EX/8000用
スポーツハイライト送出システム　取扱説明書

(標準仕様/2台制御仕様共通　Ver.5.0.0(13/1/8))　*Ver.2.53.0.4*

株式会社 オンテック

改訂履歴

改定日	改訂番号	改訂ページ	改訂内容
2007/12/26	1.0.0		新規作成
2007/2/5	1.1.0		画像差し替え
2009/6/5	2.0.0		Ver2.23.0.0 対応
2009/06/12	2.0.1	P8.10.15.16 19.21.22.52	２台制御仕様対応 図の追加、注意文言追加、機能の追加
2009/07/03	2.1.0	P7.26.30.33 62.63	Ver.2.25.2.0 対応 注意文言変更、機能の追加、説明修正
2010/05/19	3.0.0	 P7 P18 P38,39 P45 P46,47,48 P54 P56 P61 P62 P63	Ver.2.40.0.0 に対応 使用上の注意点に Version の表記を追加 TC 表示部の説明修正 区間再生の表示変更 プレイリスト情報の登録失敗についての補足 プレイリスト再生の表示変更 シーンチェンジリストの表示変更 クリップリカバー実施時の注意事項を追加 [TIMECODE]の説明修正 オプションメニューの編集系2に項目追加 オプションメニューの再生系2に項目追加
2010/08/21	3.1.0	 P8 P28 P49 	Ver.2.41.0.0 に対応 使用上の注意点に、クリップ尺 6 フレーム対応とその注意を追記 動作中の本体メニュー操作禁止に関する記述を追加 「[2]OUT 点を登録しクリップを完成させる」の注意に、クリップ尺 6f に関する内容を追記 「補足)クリップ Duration の黄色表示」を追記
2011/05/18	4.0.0		Ver.2.50.0.1 用に表紙を変更
2013/1/8	5.0.0	 P8 P10 P21 P22 P23	Ver.2.53.0.4(RS422 不要版)に対応 VDRH-8000 用も統合 全体的なデザイン変更。 VDRH-8000 に関する内容を追記 422 ケーブルの表記を削除 CH-A ステータス右クリック機能を追加 422 インジケータのない画像に差し替え (表 11 のレイアウトを変更

	5.0.0(続き)	P65 P67	【COM ポート】のメニューを削除 プレイリスト　リメイン時間表示のメニューを変更

目次

1.　はじめに

本書は VDRH-9000 用スポーツハイライト送出システム(以下本システム)の操作説明書です。

2.　概要

本システムでは、素材の録画、クリップの作成、プレイリストの作成、プレイリストの選択、および送出を行います。

3.　使用上の注意点

○ 画面左側のプレイリストより再生を行なっている間は、外部接続のスローコントローラからの操作はしないでください。正常にリストが進行しない場合があります。

○ 本システムでの制御中は、本体フロントパネルでの操作はしないで下さい。動作状況に不整合が生じ、アプリケーションからの操作を完了できない場合があります。

○ 本システムで作成可能な Clip 尺の最小限度は、2秒4フレームです。それ以下の Clip は作成できません。(本体 CPU-1 Version が 2010 年 7 月以前の場合※)
※2010 年 8 月以降のバージョンでは6フレームから作成可能ですが、プレイリストに並べた時、連続する5つクリップの合計 Duration が5s以上ないと、クリップのつなぎ目で一瞬再生が止まることがあります。

○ 収録 TC から Mark in のみを行なったクリップに対し、Goto in→Play する場合、Mark in から Goto in の間隔を約6秒程度空けてください。(本体 CPU-1 Version が 2010 年 4 月以前の場合)

○ Mark in もしくは、Mark out の操作を行ってから約6秒間は、REC 停止を行なわないで下さい。(本体 CPU-1 Version が 2010 年 4 月以前の場合)

○ REC 停止から約4秒間は、Goto in の操作を行わないでください。操作を完了できない場合があります。操作を完了できなかった場合には、もう一度 Goto in を行って下さい。

○ プレイリスト x1 再生の場合、再生ポイントから後ろ8秒間の位置へのクリップの挿入は出来ません。

○ プレイリスト再生中、x1 再生以外では、再生中の再生グループ※に対して編集を行なわないで下さい。
※再生グループについては、P.45「プレイリスト・再生グループ」をご覧下さい。

○ 収録中にアプリケーションの再起動を行なった場合、起動後に「クリップリカバー」を促すメッセージが表示されますが、クリップリカバーの必要はありません。※必要なケースもあります。詳しくは、P.60「クリップリカバー」をご参照下さい。

○ 本システムの動作中に、本体フロントパネルよりメニュー操作を行なった場合、正常に送出できない場合があります。動作中は、本体メニュー操作を行わないでください。

○ VDRH-8000 の記録領域を増やすためのコンプレス作業は、実行すると中断することが出来ません。コンプレス実行の際には、作業時間にご注意下さい。※コンプレスのついては、P.エラー! ブックマークが定義されていません。「エラー! 参照元が見つかりません。」の項をご参照下さい。

○ 内蔵 PC の OS のみシャットダウンをしてしまうと、PC を起動するために VDRH-8000 本体の電源を OFF/ON する必要があります。

4.　既知の問題

特になし(2012/12/27 現在)

5.　起動と終了

本システムの起動と終了の方法を記述します。

１）接続と電源投入

電源投入前に周辺機器を接続してください。

PC 周辺機器：

VGA モニター(アプリケーションの解像度は 1600x900(WXGA++)のみ)

Jog/Shuttle コントローラ

マウス・キーボード

周辺機器が全て所定のポートに接続されていることを確認してください。

VDRH-9000 から PC への接続：

LAN ケーブル

ダウンコンバータを経由した NTSC 信号

PC 周辺機器：

キャプチャデバイス(デスクトップでは内蔵されている場合有り、8000 では内蔵)

Jog/Shuttle コントローラ

マウス・キーボード

キャプチャ切替用 USB スイッチャー※2 台制御システムの場合のみ

以上の接続を確認し、VDRH-9000 本体と PC の電源を入れてください。

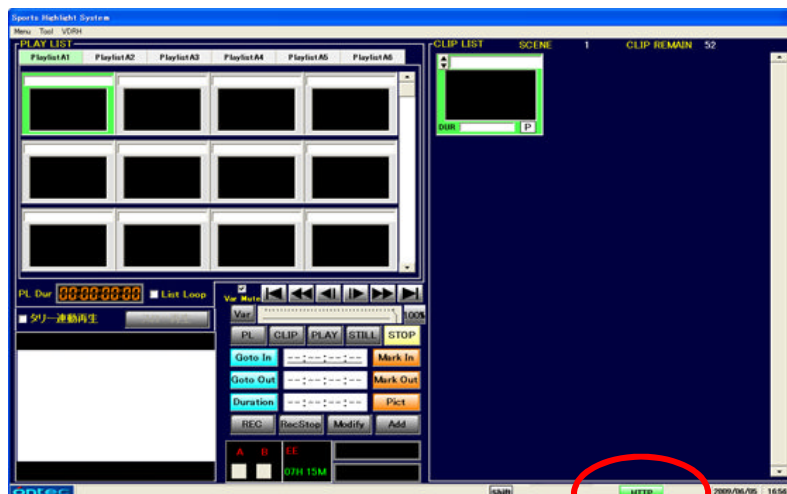
VDRH-8000 の場合は、VDRH-8000 の本体の電源を入れてください。エンベデッド PC も同時に立ち上がります。

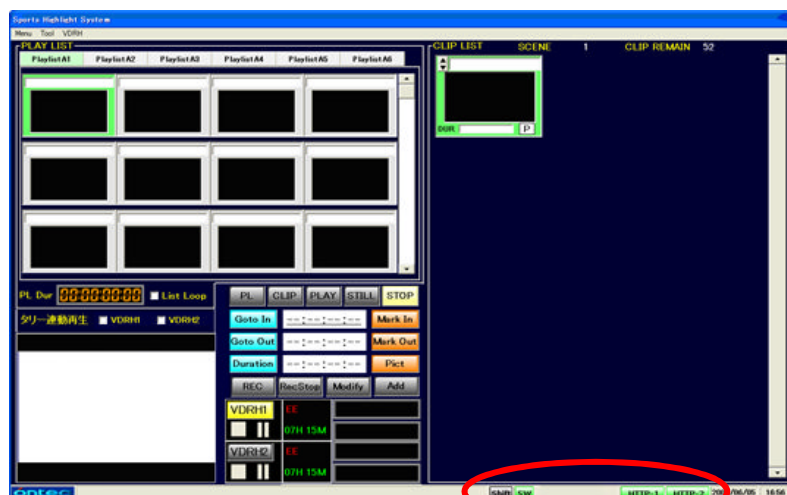
注意：VDRH-8000 では、内蔵 PC の起動と本体の起動にはタイムラグがあります。両方の起動が完了するまで操作はしないでください。

注意：VDRH-8000 の場合、PC の OS のみシャットダウンしてしまうと、PC を起動するためには VDRH-8000 本体の電源を OFF/ON する必要があります。

２）アプリケーションの起動

デスクトップ上の”スポーツハイライト”アイコン をダブルクリックするか、

「スタート→すべてのプログラム→スポーツハイライト送出システム→スポーツハイライト」をクリックして、アプリケーションを起動して下さい。

（図 1 システム起動、標準仕様）

“422”インジケータと”HTTP”インジケータが、緑色になっていることを確認してください。

（図 2 システム起動、2台制御仕様）

２台制御仕様の場合、“422”インジケータと“HTTP”インジケータに加えて、“SW”緑色になっていることを確認してください。緑色になっていない場合は、P.22「システム情報部」の項をご確認ください。

３ ）アプリケーションの終了

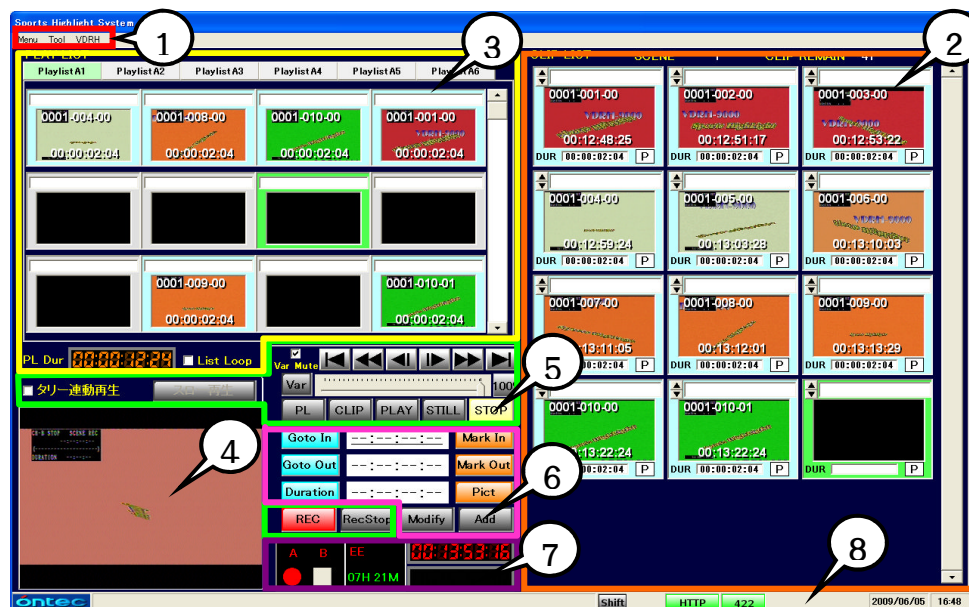
本システムを終了します。

メニューから、「終了」をクリックして下さい。

(図 3 終了メニュー)

6. 画面説明

アプリケーションを起動すると、下記のメイン画面が表示されます。

メイン画面にて、VDRH-9000 の操作、クリップの作成、プレイリストの作成および送出を行います。

（図 4 メイン画面） ※2台制御仕様の場合、一部画面が異なります。

No	項目	概要
1	メニュー部	操作メニューを表示します。
2	クリップリスト部	クリップの再生、編集、コピー等をおこないます。 オプションメニューから、ソート方法を選択できます。 初期設定では、シーン NO.→TC→クリップ NO.→枝番の順にソートされて表示されます。
3	プレイリスト部	クリップを並べて、再生用イベントを作成します。
4	キャプチャ部	VDRH-9000 からの出力の映像を表示します。
5	VDRH 操作部	VDRH-9000 を制御します。
6	クリップ情報部	クリップのタイムコード情報を編集します。 サムネイルを取得します。
7	VDRH 情報部	VDRH-9000 のタイムコードを表示します。 クリップ/プレイリストの再生における残時間を表示します。
8	システム情報部	システムのステータスを表示します。

※ 付属の JOG/SHUTTLE コントローラを使って、VDRH-9000 の操作が可能です。

（表 1 画面機能ブロック一覧）

次頁より、各項目の説明を致します。

１)メニュー部

操作メニューを表示します。
操作メニューには以下の項目があります。

［1］「メニュー」メニュー

NO	項目	概要
1	Language	日本語/英語の切替えができます。 ※切り替える場合には、アプリケーションの再起動が必要です。
2	終了	プログラムを終了します。

(表 2 メニューメニュー項目一覧)

［2］「ツール」メニュー

NO	項目	概要
1	クリップの全削除	CLIP LIST 内のクリップを全削除します。
2	プレイリストの全削除	PLAY LIST 内のクリップを全削除します。

(表 3 ツールメニュー項目一覧)

［3］「VDRH」メニュー

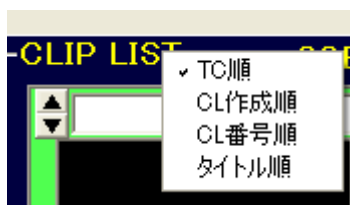
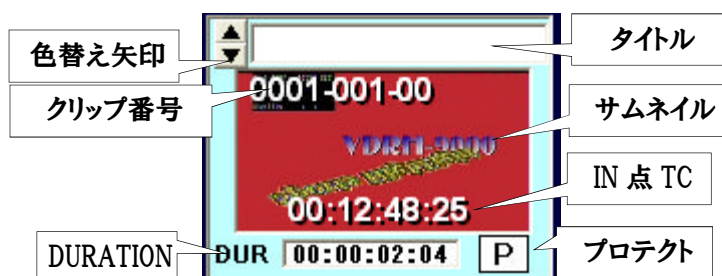
NO	項目	概要
1	シーンチェンジ	VDRH-9000 本体内のシーン情報を表示します。
2	クリップリカバー	VDRH-9000 に登録されているクリップ情報の取得と PC 内のクリップ情報を全削除します。
3	コンプレス	コンプレスを実行します。
4	フォーマット	フォーマットを実行します。
5	オプション	各種オプションの設定を行ないます。
6	バージョン表示	VDRH-9000 とスポーツハイライト送出ソフトの ソフト・バージョン情報を表示します。

(表 4 VDRH メニュー項目一覧)

２）クリップリスト部

クリップの作成、編集、再生、コピー等を行います。
エリア最上段には、現在選択中のクリップのシーン番号(SCENE)と、そのシーンで作成可能なクリップ残数(CLIP REMAIN)が表示されます。

(図 5 シーン・リメイン情報)

クリップは、In 点 TC→シーン NO.→クリップ NO.→枝番の順にソートされて表示されます。
(初期設定/オプションにより変更可)
エリア最上部の CLIP LIST を右クリックすると、ソートメニューが表示されます。

(図 6 ソートメニュー)

(図 7 クリップリストのクリップ)

[1]クリップリストのクリップ情報

クリップリストのクリップは、以下の情報を表示します。

NO	項目	概要
1	タイトル	クリップのタイトルを入力できます(MAX30 文字)。 タイトル左の矢印で、背景色を変更できます(5 色)。
2	クリップ番号	クリップを一意に認識する番号を表示します。 表示項目は、シーン No.－クリップ No－枝番です。
3	サムネイル	クリップの先頭位置の画像を表示します(デフォルト)。 サムネイル編集により、任意の画像に変更できます。
4	In 点 TC	クリップの先頭 TC を表示します。
5	Duration	クリップの長さを表示します。 In/Out 点が登録されていない場合は、空欄になります。
6	プロテクト	クリップの保護状態を表示します。

(表 5 クリップ情報一覧)

３）プレイリスト部

クリップを並べて、再生用イベントを作成します。プレイリストはタブの切り替えにより、6 つまで作成することができます。各タブには、最大 100 クリップ登録することができます。

[1]プレイリストタブ情報

プレイリストタブの切り替えが行えます。
右クリックによりタブのタイトルを変更することができます。

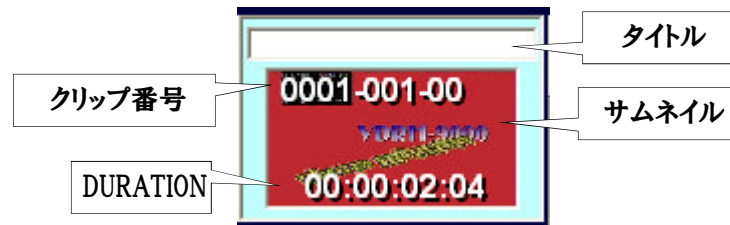
PLAY LIST
Playlist A1 | Playlist A2 | Playlist A3 | Playlist A4 | Playlist A5 | Playlist A6

(図 8 プレイリストタブ)

[2]プレイリストのクリップ情報

プレイリストのクリップは、以下の情報を表示します。

NO	項目	概要
1	タイトル	クリップのタイトルを表示します。
2	クリップ番号	クリップを一意に認識する番号を表示します。 表示項目は、シーン No.－クリップ No.－枝番です。
3	サムネイル	クリップのサムネイル画像を表示します。
4	Duration	クリップの長さを表示します。

(表 6 クリップ情報一覧)

(図 9 プレイリストのクリップ)

[3]プレイリストの Duration (PL Dur)

現在表示しているプレイリストタブに登録されている全クリップの長さの合計を表示します。

[4]ループ再生設定 (List Loop)

プレイリストのループ再生設定ができます。

(図 10 プレイリストの Duration とループ再生設定)

4)キャプチャ部

ビデオキャプチャ機器に入力された、SD 映像を表示します。また、キャプチャ部に表示されている画像が、サムネイル設定時の元画像になります。

5)VDRH 操作部

マウスオペレーションで VDRH の操作ができます。

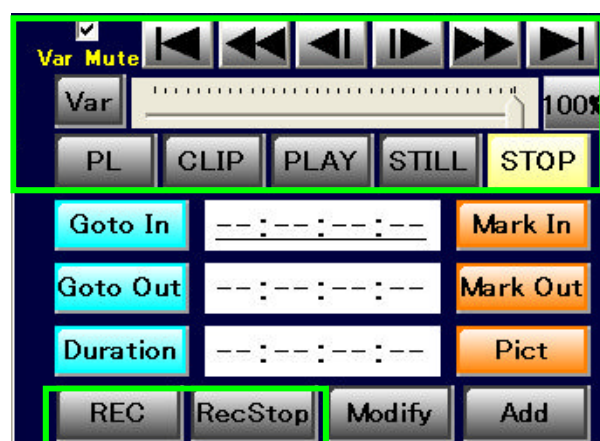
VDRH 操作ボタンでは、以下の操作が可能です。

NO	項目	概要
1		先頭、あるいは末尾をキューアップします。ボタンを押下した時の動作は再生中の状態によって変わります。 シーン再生:シーンの先頭/末尾をキューアップ 区間再生:クリップの先頭/末尾をキューアップ プレイリスト再生:前後のクリップをキューアップ
2		32 倍速で FF または REW します。
3		スチル状態の時に、1 フレーム前後移動します。
4	速度固定ボタン※1	それぞれの速度で再生を行います。(オプション設定)
5	-PLAY、PLAY	順逆方向に、1倍速で再生を行います。
6	STILL	スチルします。
7	STOP	再生をストップします。
8	REC	録画を開始します。
9	Rec Stop	SHIFT キーを押しながら、ボタンを押すことで録画を停止します。
10	PL	プレイリスト再生準備を行います。
11	CLIP	クリップ区間再生準備を行います。
12	Var MUTE	ノーマルスピード以外の再生時に、音声の出力を選択で来きます。(注:設定変更後の次の動作から有効)
13	スライダーバー※1	Var ボタン押下した時の速度を指定します。
14	Var ボタン※1	スライダーバーで指定した速度で再生します。 右クリックすると、スライダーバーを切り替えます。 (0～100%表示か-100%～100%表示)
15	タリー連動再生 /スロー再生ボタン※2	VDRH-9000 本体の GPI 連動で Bch の再生を開始する場合、このチェックボックスにチェックを入れます。/ GPI 連動でスロー再生を開始する場合、スロー再生ボタンを押します。 ※タリー連動スロー再生は標準仕様のみ

(表 7 VDRH 操作機能一覧)

※1 オプションの設定に従って表示されます。/ 2 台制御仕様では表示されません。

※2 標準仕様と2台仕様制御では表示や機能が異なります。

（図　11 VDRH 操作部ボタン/
スロー固定ボタン（オプション設定））

（図　12 VDRH 操作部ボタン/
スライダーバー（オプション設定））

（図　13 VDRH 操作部ボタン/2 台制御仕様）

（図　14 タリー連動再生/タリー連動スロー再生）

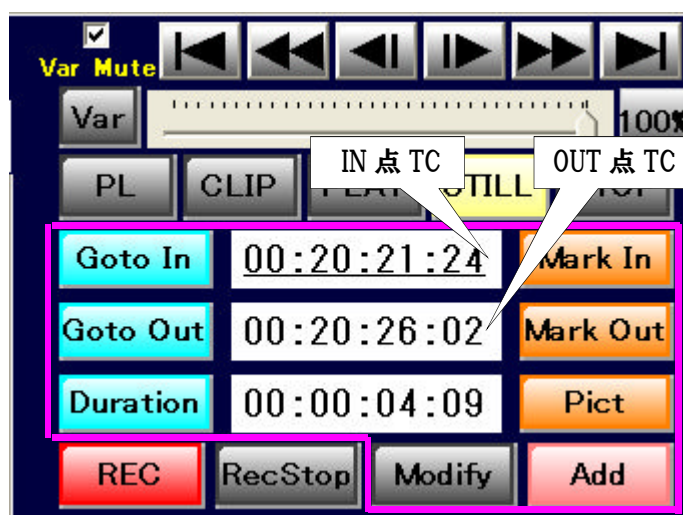
（図　15 タリー連動再生/2 台制御仕様）

6)クリップ情報部

クリップの詳細情報を表示します。また、クリップの編集作業を行います。

クリップ情報部には、以下の項目があります。

NO	項目	概要
1	GOTO In/Out ボタン	In/Out 点をキューアップします。
2	In 点/Out 点　表示	In 点/Out 点の TC を表示します。 直接入力によるクリップの編集も出来ます。 アンダーバーのあるほうが、Duration 直接入力の基準点になります。
3	Duration ボタン	Duration を直接入力する際の基準点(In 点/Out 点)を切り替えます。
4	Duration 表示	クリップの長さを表示します。 直接入力によるクリップの編集も出来ます。
3	Mark In/Out ボタン	現在表示中の位置を、In あるいは Out 点として登録します。
4	Pict ボタン	キャプチャ部に表示されている映像を、クリップのサムネイル画像にします。
5	Modify ボタン	クリップの編集を行なうと点灯し、押下すると変更内容を確定します(上書き)。
6	Add ボタン	クリップの編集内容を、クリップを新規に作成して確定します。 編集せずに押した場合、選択されたクリップを複製します。

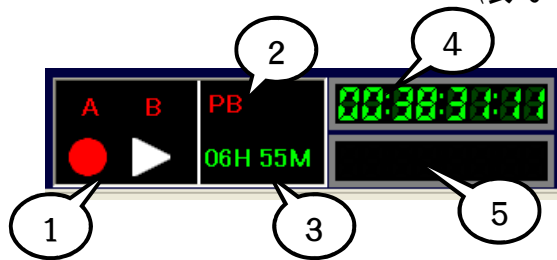
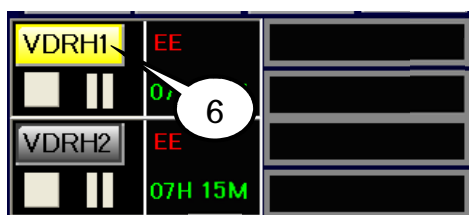
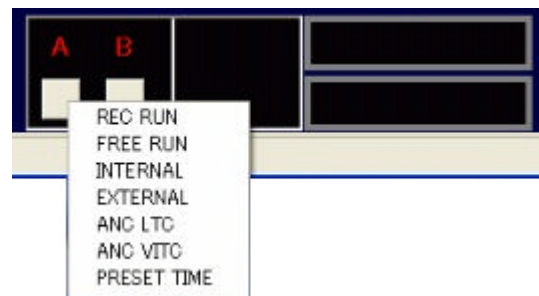
(表 8 クリップ情報部項目一覧)

(図 16 クリップ情報部)

7 ）VDRH 情報部

VDRH-9000 の情報を表示します。

VDRH 情報部の表示には、以下の項目があります。

NO	項目	概要
1	動作状態	各チャンネルの動作状態を表示します。 動作状態には、以下のものがあります。 CH-A:STOP ■、REC ● CH-B:STOP ■、±PLAY ▶/◀、STILL ❚❚、FF ▶▶、REW◀◀ CH-A のステータス部分で右クリックすると、Timecode 設定を変更できます。
2	出力情報	CH-B から出力されている映像種類を表示します EE / PB
3	録画可能時間	VDRH-9000 に録画できるおおよその時間を表示します。 緑色表示:残時間が 1 時間以上 黄色表示:残時間が 1 時間未満～30 分以上 赤色表示:残時間が 30 分未満
4	TC 表示	VDRH-9000 のタイムコードを表示します。 赤色表示:REC 中 EE 表示(Ch-A の TC) 緑色表示:再生 TC(Ch-B の TC) PL 再生中は、再生中クリップの TC か、クリップリメインを表示します。(オプション設定)
5	REMAIN 表示	区間再生・プレイリスト再生時に、残り再生時間を表示します。
6	VDRH 選択ボタン ※2 台制御仕様のみ	現在制御中の VDRH を黄色で表示します。黄色表示ではない方クリックすると、制御する VDRH が切り替わります。

(表 9 VDRH 情報部一覧)

(図 17 VDRH 情報部/標準仕様)

(図 18 VDRH 情報部/2 台制御標準仕様)

(図 19 VDRH 情報部/TC 設定変更)

8)システム情報部

本システムの動作状態を表示します。

システム情報部の表示には、以下の項目があります。

NO	項目	概要
1	“HTTP”インジケータ	PC と VDRH-9000 の HTTP 通信状態を表示します。 緑色表示：正常 黄色表示： 通信が出来ない（ケーブルが抜けている、IP が合っていない等） 赤色表示： VDRH-9000 本体にエラーが発生している →赤色の HTTP インジケータをクリックすると、エラー番号の確認が行なえます。（エラー詳細は、別途エラーコード表をご確認下さい。） ※2台制御の場合、「HTTP-1」と「HTTP-2」の二つ表示され、それぞれ1台目と2台目のステータスを表します。
2	“Shift”インジケータ	Jog/Shuttle コントローラ、またはキーボードの Shift キーが押されているときに、インジケータが緑色になります。
3	“SW”インジケータ ※2台制御仕様のみ	キャプチャ切替用 USB スイッチャが接続されているときに、インジケータが緑色になります。

（表 10 VDRH 情報部一覧）

（図 20 システム情報部/標準仕様）

（図 21 システム情報部/2 台制御仕様）

7.　JOG/SHUTTLE コントローラ

本システムは、増設機材の JOG/SHUTTLE コントローラ(以下、コントローラ)によって操作することが可能です。コントローラには、以下の機能が割り振られています。

(図　22 JOG/SHUTTLE コントローラ)

ボタン	機能
1	「SHIFT」
2	「REC」 「REC STOP」
3	「PICT MARK」サムネイル取込み 「PL INST」クリップの PL 登録
4	「CL END」CL の最後に移動 「PL TOP」PL の先頭に移動
5	「REW」巻き戻し(-x32) 「PL TAB BACK」PL タブ左移動
7	「PLAY」 「PL stdby」PL 再生スタンバイ
8	「STILL」 「CL stdby」区間再生スタンバイ
9	「FF」早送り(+x32) 「PL TAB NEXT」PL タブ右移動
10	「CL CLIP BACK」CL 選択カーソル戻し 「PL CLIP BACK」PL 選択カーソル戻し
11	「CL CLIP NEXT」CL 選択カーソル送り 「PL CLIP NEXT」PL 選択カーソル送り
12	「GO TO IN」
13	「GO TO OUT」
14	「Mark IN」 「Modify」
15	「Mark OUT」 「Add」

JOG※	・可変速再生 ・Bch 停止中に 順方向:最後に再生したシーンのシーントップ呼び出し 逆方向:最後に再生したシーンのシーンエンド呼び出し
SHUTTLE※	可変速再生 オプションにより、SHUTTLE か Variable かを選択できます。

※　CL:クリップリスト　/　PL:プレイリスト　　※青字は、＋SHIFT キーでの機能

※JOG と SHUTTLE は、選択している VDRH に対してのみ動作します。

(表　11 JOG/SHUTTLE コントローラ機能一覧)

8.　クリップの作成・編集

映像素材の録画や、クリップの作成・修正・削除等、クリップの編集方法を記述します。

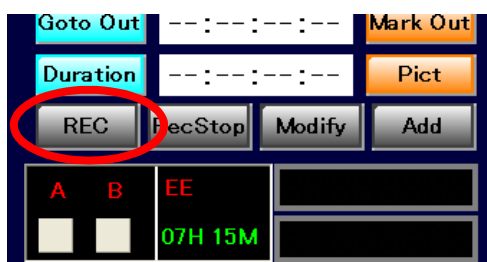
※以下、標準仕様の GUI を用いて説明します。

2台制御仕様の場合は、GUI のボタンの配置が多少異なりますので、ボタン名を参考にして下さい。

１)録画

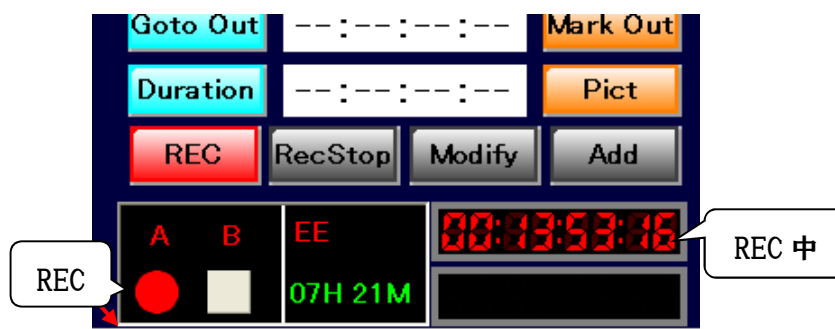
[1]録画を開始する

録画を開始するには以下の2通りの方法があります。

①「VDRH 操作部」の[REC]ボタンをクリック

(図　23 REC ボタン)

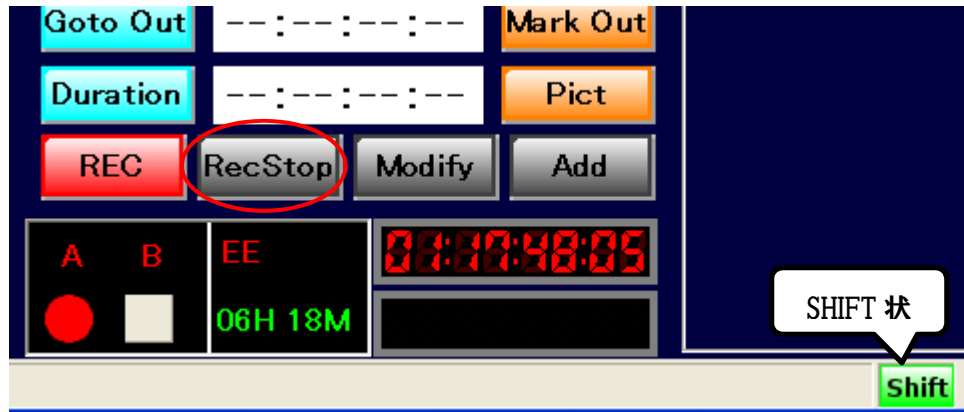
②コントローラの[REC]ボタンを押す。

(図　24　コントローラ REC ボタン)

録画が開始されると、REC ボタンが赤になり、REC インジケータと REC 中 TC が表示されます。

(図　25　録画中)

［2］録画を停止する

録画を停止するには、以下の2通りの方法があります。

①キーボードの SHIFT ボタンを押しながら ［RecStop］をクリックする。

（図　26 RecStop ボタン）

②コントローラの SHIFT ボタン＋［REC STOP］ボタンを押す。

（図　27　コントローラ SHIFT+REC STOP）

録画停止処理を経て、録画が終了します。

２）クリップの新規作成

クリップの作成は、収録 TC に対して、もしくは録画中/録画済シーンの再生 TC を元に作成します。

クリップを新規作成は、クリップリストの最後にある空のクリップを選択した状態で行ないます。(コントローラの「CL END」を押すと、空のマスへジャンプします。)

収録済みのシーンは、「VDRH」メニュー→「シーンチェンジ※」から呼び出せます。

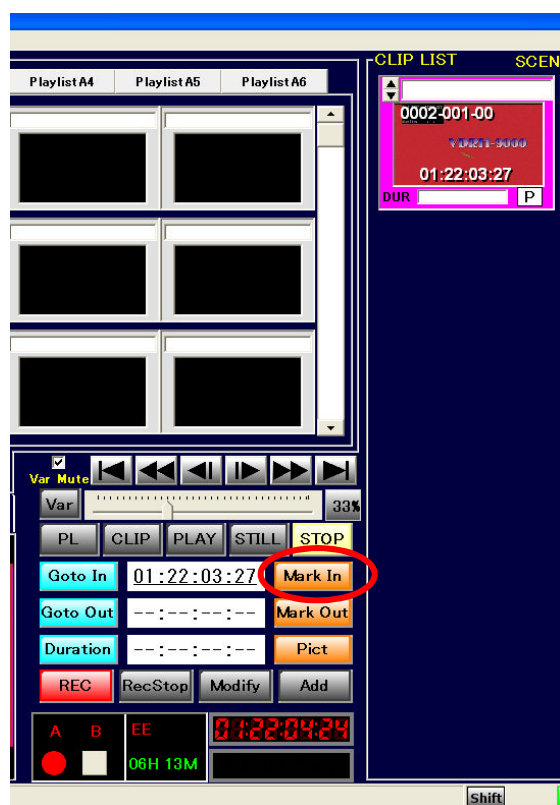
※シーンチェンジについては、P.58「シーンチェンジ」をご参照下さい。

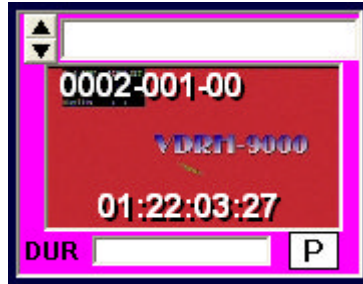
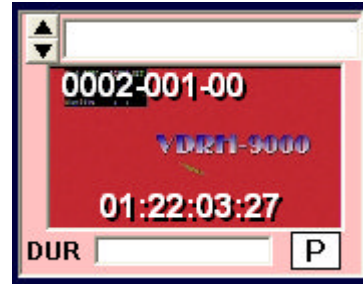
［1］IN 点登録

Ch-B が停止中(Ch-A は収録中)もしくは再生中に、［Mark IN］ボタンをクリックするか、コントローラの Mark IN ボタンを押すことで、IN 点の登録ができます。

IN 点登録の元となる TC は収録/再生状態によってことなります。

・Ch-B が停止中で、Ch-A が収録中の場合　=EE(収録)の TC

・Ch-B が再生中で、Ch-A が収録中または停止中の場合=PB(再生)の TC

(図 28 録画 EE での IN 点登録)

IN 点を登録した時点で、クリップは作成されますが、クリップとしては完成していません。
未完成のクリップは、以下のように表示され Duration が空欄になります。

(図 29 選択未完成クリップ)　　(図 30 非選択未完成クリップ)

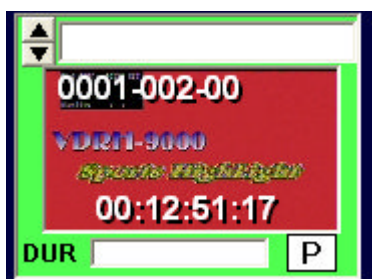
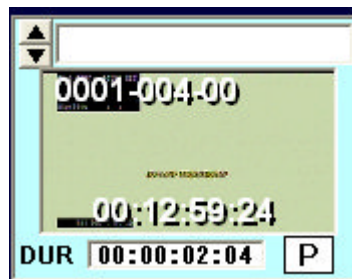
なお、未完成クリップを選択して Mark IN を押し続けることで、IN 点を更新し続けることが出来ます。

注意：初期設定状態では、クリップリストは「IN 点 TC→シーン No.→クリップ No.→枝番」の順でソートされるため、IN 点登録を行った時にクリップの表示順番が変わることがあります。
　ソートの順番は、「VDRH」メニュー→「オプション」から変更できます。詳しくは、P.65「オプションメニュー」の項をご参照下さい。

[2]OUT 点を登録しクリップを完成させる

IN 点登録済みのクリップを選択し、[Mark Out]ボタンをクリックするか、コントローラの Mark OUT ボタンを押すことで、OUT 点の登録ができます。

(図 31 OUT 点登録)

IN/OUT 点の登録が完了した時点でクリップが完成し、選択カーソルが次のマスに移動します。
完成したクリップは、以下のように表示され Duration が表示されます。

(図 32 選択完成クリップ)

(図 33 非選択完成クリップ)

注意:本体 CPU-1 Version が 2010 年 7 月以前の場合、In 点から 2s4f 以内に Mark OUT した場合、自動で In 点から 2s4f 後に Out 点を登録します。2010 年 8 月以降のバージョンでは6フレームから作成可能です。

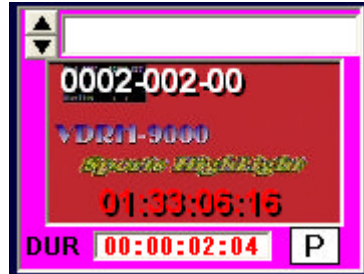
補足)OUT 点からのクリップ作成について

クリップを新規作成する際に、Out 点を先に登録することも出来ます。

Out 点のみ登録した未完成クリップに対して Mark Out を押し続けることで、Mark In と同様に Out 点を更新し続けることが出来ます。

なお、In 点と Out 点が逆転している場合、Duration が赤字で表示されます。

注意　**収録停止に関する注意**

収録 TC からクリップを作成する場合は、IN/OUT 点の登録後、**6 秒間は録画を停止させない**でください。
IN/OUT 点におけるタイムコードの登録に失敗します。(本体 CPU-1 Version が 2010 年4月以前の場合)
IN/OUT 点の登録に失敗したクリップは、DUR が赤色で表示されます。

(図　34　登録失敗クリップ)

IN/OUT 点登録失敗クリップの再登録方法

1. 登録失敗したクリップを選択します。

登録に失敗した TC が、赤色で表示されます。下図の場合 OUT 点の登録に失敗しています。

(図　35　登録失敗クリップのクリップ情報部表示)

2. [Modify]ボタンが点灯していますのでクリックして下さい。

3. 登録が成功すれば、赤色で表示されていた項目が黒色になり、クリップが緑色で表示されます。

３）IN/OUT 点のキューアップ

[1]IN 点キューアップ

以下の3通りの方法があります。

①任意のクリップをダブルクリックする。
(オプション設定による。詳しくは、P.61「オプションメニュー」の項をご参照下さい。)

②キューアップしたいクリップを選択して、「VDRH 操作部」の[Goto In]ボタンをクリック

③キューアップしたいクリップを選択して、コントローラの[Goto In]ボタンを押す。

(図　36 IN 点位置キューアップ)

[2]OUT 点キューアップ

以下の2通りの方法があります。

①キューアップしたいクリップを選択し、「VDRH 操作部」の[Goto Out]ボタンをクリック

②キューアップしたいクリップを選択して、コントローラの[Goto Out]ボタンを押す。

(図　37 OUT 点位置キューアップ)

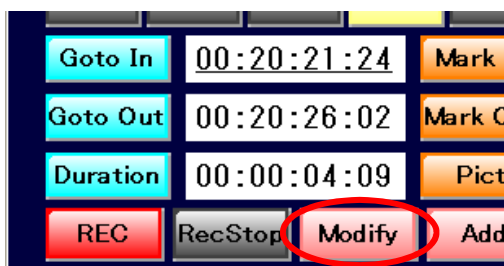
４）クリップの修正・複製

[1]クリップ修正

1. 修正したいクリップを選択して、IN 点もしくは OUT 点をキューアップして下さい。

2. Jog/Shuttle 等で任意の TC に合わせたら※、クリップ作成の時と同様に Mark In/Mark Out で TC の修正をします。In/Out 点のいずれかが変更されると、Duration の値も再計算されます。

※TC は直接入力することも出来ます。詳しくは、P.33「TC・Duration の直接入力」の項をご参照下さい。

3. IN/OUT 点の修正を行うと、[Modify]ボタンが点灯するので、[Modify]ボタンをクリックすると変更内容が保存されます。

(図 38 修正内容の保存)

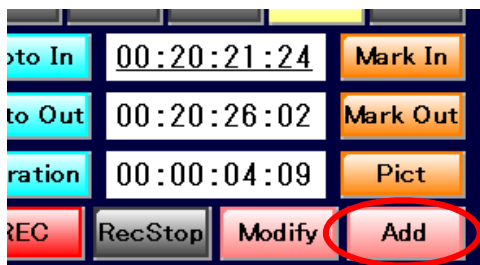
注意：初期設定では、Modify をすると、In 点にキューアップし、In 点の静止画をサムネイルとして再取得します。再取得しないようにするには、オプションで変更してください。

※詳しくは、P.65「オプションメニュー」の項をご参照下さい。

注意：編集したクリップが、プレイリストに登録されている場合は、プレイリストのクリップも変更されます。

[2]クリップの複製

　クリップ修正を完了する際、[Modify]ボタンを押さずに[Add]ボタンをクリックすると、別クリップとして変更内容を保存します。

　別クリップとして保存されますので、元のクリップは変更されません。

(図 39 Add ボタン)

[Add]ボタンは、In/Out 点の変更を行わなくても押すことが出来ます。

その場合、選択したクリップがそのまま複製されます。

注意：ただし初期設定では、サムネイルは In 点の静止画を再取得し、In 点にキューアップします。

サムネイルを変更しない場合は、オプションで変更してください。

※詳しくは、P.65「オプションメニュー」の項をご参照下さい。

　クリップの複製が作成されると、新しいクリップには、元のクリップ番号の末尾の枝番がインクリメントされた番号が割り振られます。

補足)クリップ編集のキャンセル

　クリップの編集をした後に、Modify も Add も行わず、別のクリップを選択した場合は、編集内容が破棄されます。

5)TC・Duration の直接入力

クリップの作成・編集をする際、TC を直接入力することが出来ます。

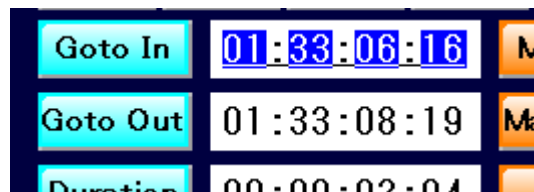
[1]TC の入力

TC の入力方法には3種類あります。

① 全入力

8桁すべてを入力する方法です。

クリップ情報部の In TC か Out TC のどちらか入力したい方をクリックします。

8 桁すべてが反転しますので、数字キーで TC を入力して下さい。

(図 40 全入力)

入力した数字は、一番下の位(フレームの1の位)に反映されます。次の数字が入力されると、前に入力した数字は一つ上の位へと繰り上げられます。

例:「2」→「5」→「1」→「0」とテンキーをたたくと、

「2」 ――:――:――:―2

↓

「5」 ――:――:――:25

↓

「1」 ――:――:―2:51

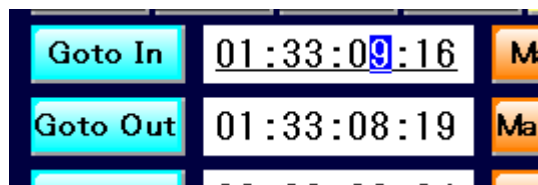
↓

「0」 ――:――:25:10

変更後、Enter キーを押下すると入力した数値が反映され、その値に Cue Up します。

② **部分入力**

任意の位から順に下の位を入力する方法です。

クリップ情報部の TC **をクリックし8桁すべてを反転させた後、変更したい位だけを再度クリックすると、その位だけが反転された状態になります。数字キーで** TC **を入力して下さい。**

（図 41 **部分入力**）

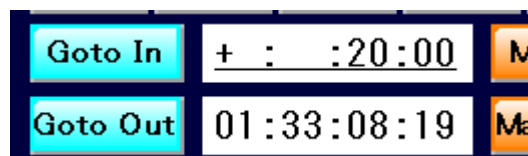
数字が打たれると、一つ下の位にカーソルが移動します。

Enter **キーを押下すると入力した数値が反映され、その値に** Cue Up **します。**

③ **相対入力**

加減法で TC **の値を変更する方法です。**

クリップ情報部の TC **をクリックし8桁すべてを反転させた後、加算する場合は「＋」、減算する場合は「－」を入力します。その後、変更したい値を入力します。**

Enter **キーを押下すると、入力した値が元の** TC **から加減され、その値に** Cue Up **します。**

（図 42 **相対入力**）

補足）DEL **キー**/ESC **キーの動作**

TC **が反転されている時に、**DEL **キーを押すと、入力されている** TC **がクリアされます。**

また、変更途中で ESC **キーを押すと、変更前の値に戻ります。**

［2］Durationの入力

Durationを変更する場合、In TCかOut TCのどちらか下線のついている方が、変更の起点となります。

In TC起点(In TCに下線)の場合

Out TCが「In TC＋Duration値」に変更されます。

Out TC起点(Out TCに下線)の場合

In TCが「Out TC－Duration値」に変更されます。

[Duration]ボタンを押すと、起点が切り替わります。

Durationの数値は、TCと同様に入力できます。(全入力/部分入力/相対入力)

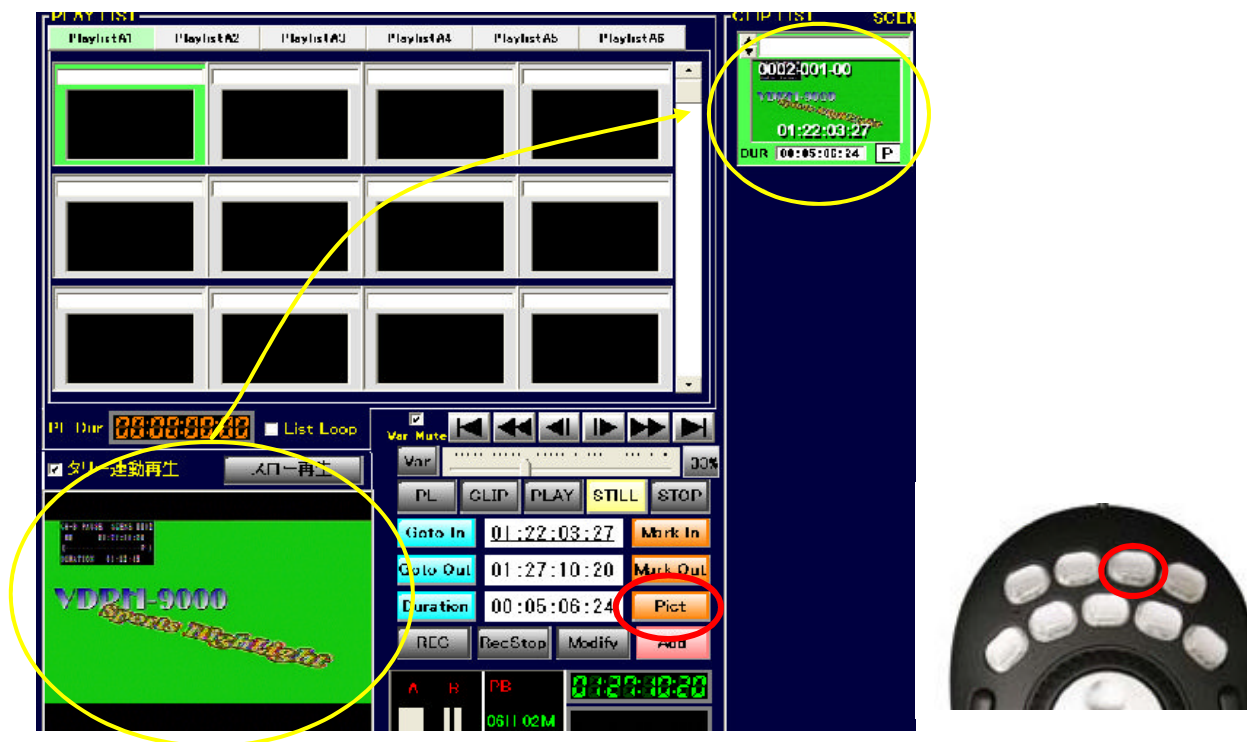
Enterキーを押下すると、起点となっていないTCが変更され、その値にCue Upします。

※オプション設定により、Out TC起点の入力を行なわない様に出来ます。詳しくは、P.61「オプションメニュー」の項をご参照下さい。

注意：EEのTCからMark Inの後、Duration設定でOut点を決めようとした時、Out点が存在していないために、「No TC FOUND」エラーが上がることがあります。

注意：同じく、EEのTCからMark Inの後、Duration設定でOut点を決めようとした時、指定したDuration長によって、Out点が設定できずCue Upだけ掛かる場合があります。その場合、Cue Upされた状態で、Mark Out操作をしてOut点の登録をして下さい。(既存クリップの編集の際は、ModifyかAddを忘れずに行なって下さい。)

6)クリップサムネイルの再取得

作成したクリップのサムネイルを変更することができます。
変更したいクリップを選択して、[Pict]ボタンをクリックするか、コントローラの[PICT MARK]ボタンを押すと、キャプチャ部に表示されている画像が、クリップの新しいサムネイルとして取得されます。※収録・再生ともに停止中の場合、この操作は利きません。

(図 43 サムネイル変更)

注意:PICT 操作は、キャンセルできません。元に戻せません。

注意:サムネイルを変更したクリップが、プレイリストに登録されている場合は、プレイリストクリップのサムネイルも変わります。

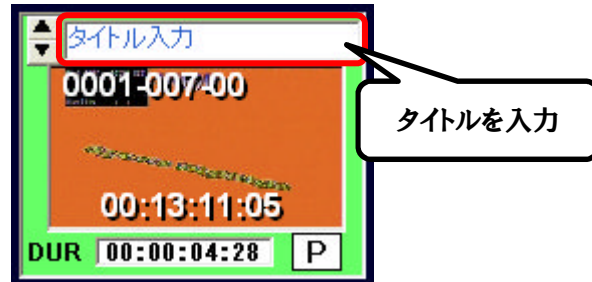
注意:初期設定では、TC の修正中に、サムネイルの再取得を行なった場合、「Modify」や「Add」を実行した時点で、In TC の静止画をサムネイルとして取得してしまいます。Pict は編集完了後に、単独で操作するか、オプションで取得しないように変更してください。

※詳しくは、P.65「オプションメニュー」の項をご参照下さい。

７）クリップタイトル入力

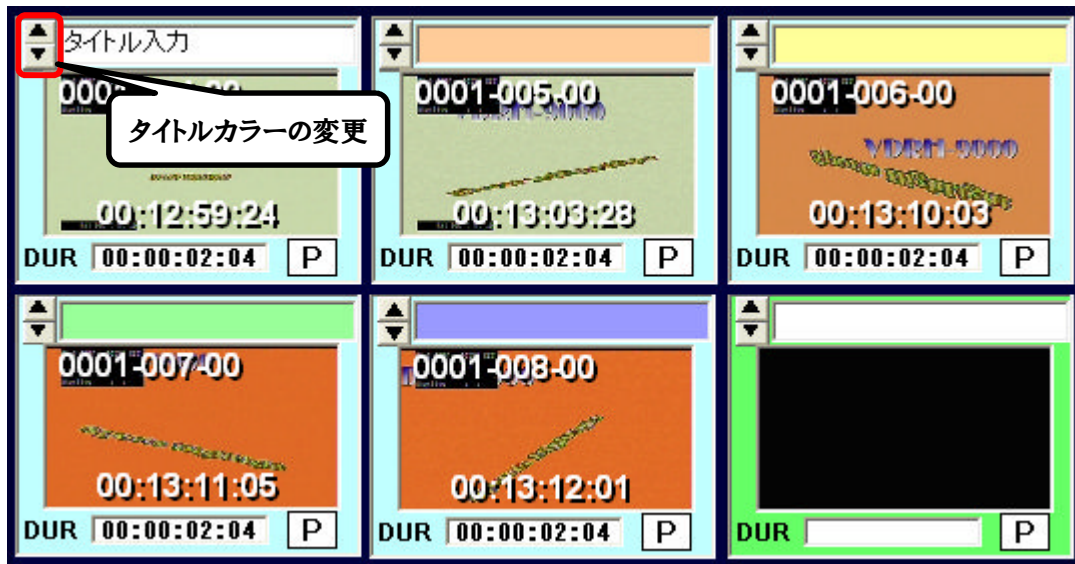
クリップには、タイトルが入力できます。

タイトル部分をクリックし、文字を入力して下さい。入力中は文字が群青色ですが、Enter キーを押すことにより、黒色文字になって確定します。

※タイトルを確定する前に、違うクリップを選択した場合は、入力内容は破棄されます。

（図　44　タイトル未確定状態）

注意：タイトル入力したクリップがプレイリストに登録されていた場合は、タイトルが確定した時点で、プレイリストクリップのタイトルも変わります。

８）タイトルカラー変更

タイトル枠の右側の［▲］［▼］ボタンをクリックすると、クリップタイトルの背景色の変更ができます。（オプションで色の変更が出来ます。）

（図　45　タイトル背景色）

注意：背景色を変更したクリップが、プレイリストに登録されていた場合は、プレイリストクリップのタイトル背景色も変わります。

９）プロテクト設定

クリップにプロテクトの設定をすることができます。
クリップ内の右下「P」マークをクリックすることで、黄色の背景に赤文字の「P」マークに変わり、プロテクト状態になります。
プロテクトを設定すると、
①クリップの削除ができなくなります。
②IN/OUT 点の編集ができなくなります。
③IN/OUT 点、Duration の入力ができなくなります。
④クリップを含むシーンが削除できなくなります。

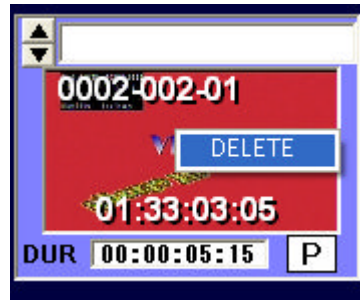
プロテクトを解除するには、SHIFT キーを押しながら「P」マークをクリックしてください。

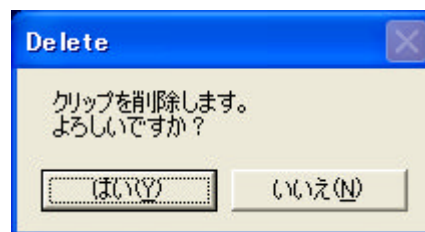
（図 46 プロテクトクリップ）

（図 47 プロテクトクリップ選択時のクリップ情報部）

10 ）クリップ削除

1. クリップの削除を行う場合は、削除したいクリップ上で右クリックをして下さい。
   右クリックされたクリップは青色表示されます。

2. ポップアップメニューの[DELETE]をクリックしてください。

(図 48 削除選択クリップ・ポップアップメニュー)

3. 削除確認ダイアログが表示されます。
   削除する場合は[はい]を、削除しない場合は[いいえ]をクリックしてください。

(図 49 削除確認ダイアログ)

削除が実行されれば、削除した後のクリップが前詰めされます。

なお、SHIFT キーや CTRL キーを押しながら右クリックをすると、複数のクリップを選択できます。最後に右クリックしたところで表示されたポップアップメニューで DELETE を実行すれば、複数のクリップを一度に削除することが出来ます。

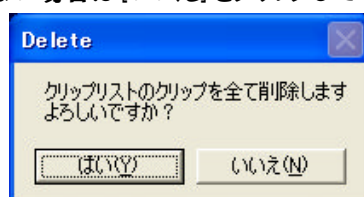
注意：クリップリストからクリップを削除すると、プレイリストに登録されているクリップも削除されます。

11 ）クリップ全削除

クリップの全削除を行う場合は、メニュー部の［ツール］から［クリップの全削除］をクリックして下さい。

（図　50　クリップ全削除メニュー）

クリップ全削除の確認ダイアログが表示されます。

削除する場合は［はい］を、削除しない場合は［いいえ］をクリックしてください。

（図　51　クリップ全削除確認ダイアログ）

注意：プレイリストに登録されているクリップも全て削除されます。プロテクトされているクリップは削除されません。

12 ）クリップの区間再生

作成したクリップの In/Out 区間再生をすることができます。

この操作をすると、In 点 TC に Cue Up がかかり、手動で再生させた後、自動で Out 点にて Still します。

1．　区間再生のスタンバイをします。

区間再生のスタンバイをするには、3通りの方法があります。

① 再生するクリップをダブルクリック

（オプション設定による。詳しくは、P.61「オプションメニュー」の項をご参照下さい。）

② クリップを選択して、SHIFT キーを押しながらコントローラの[STILL]ボタンを押す。

③ クリップを選択して、[CLIP]ボタンをクリックして下さい。

①

②

③

（図 52 区間再生準備）

選択したクリップがキューアップされます。キューアップされると黄色表示に変わり、[CLIP]ボタンが黄色表示になります。

（図 53 区間再生キューアップ）

2. 再生

[PLAY]ボタンをクリックするか、コントローラの[PLAY]ボタンを押すと再生を始めます。

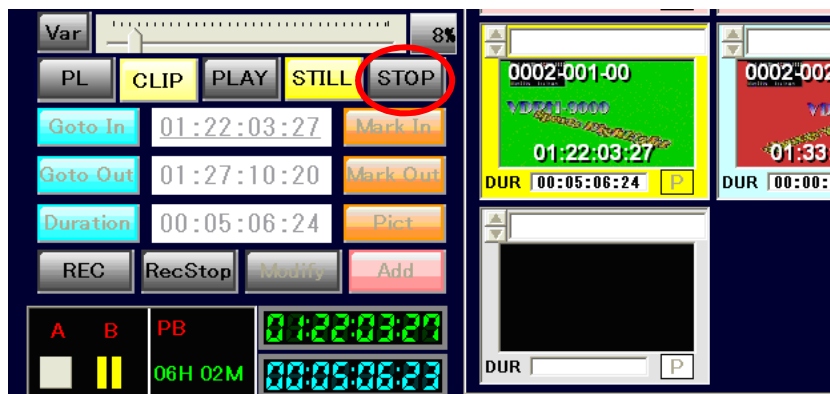
再生中のクリップは、赤色表示になります。

再生中は、コントローラから JOG/SHUTTLE(Variable)の操作が可能です。

(図 54 区間再生)

OUT 点まで再生したら自動で Still になります。

3. 区間再生モードの終了

区間再生モードから抜けるには、[STOP]ボタンをクリックするか、コントローラの[STOP]ボタンを押して下さい。

(図 55 区間再生終了)

9.　プレイリスト

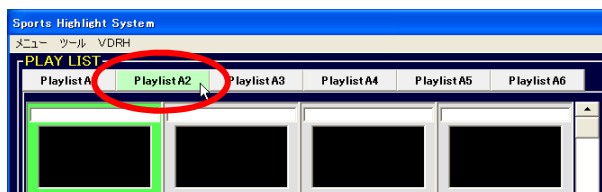
プレイリストの作成、再生、編集等の作業について記述します。

１）プレイリスト・タブグループ

プレイリストのタブを使用することにより、プレイリストをシーンや使用用途ごとに大別することができます。

[1]プレイリストタブ選択

プレイリストの切り替えるには、以下の2通りの方法があります。

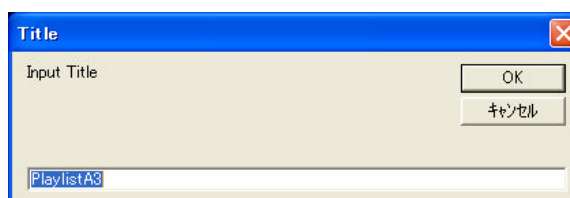
①プレイリストのタブをクリックする。

(図　56　プレイリストタブ選択・クリック)

②コントローラの SHIFT+[PL TAB BACK]／ [PL TAB NEXT]ボタンを押す。

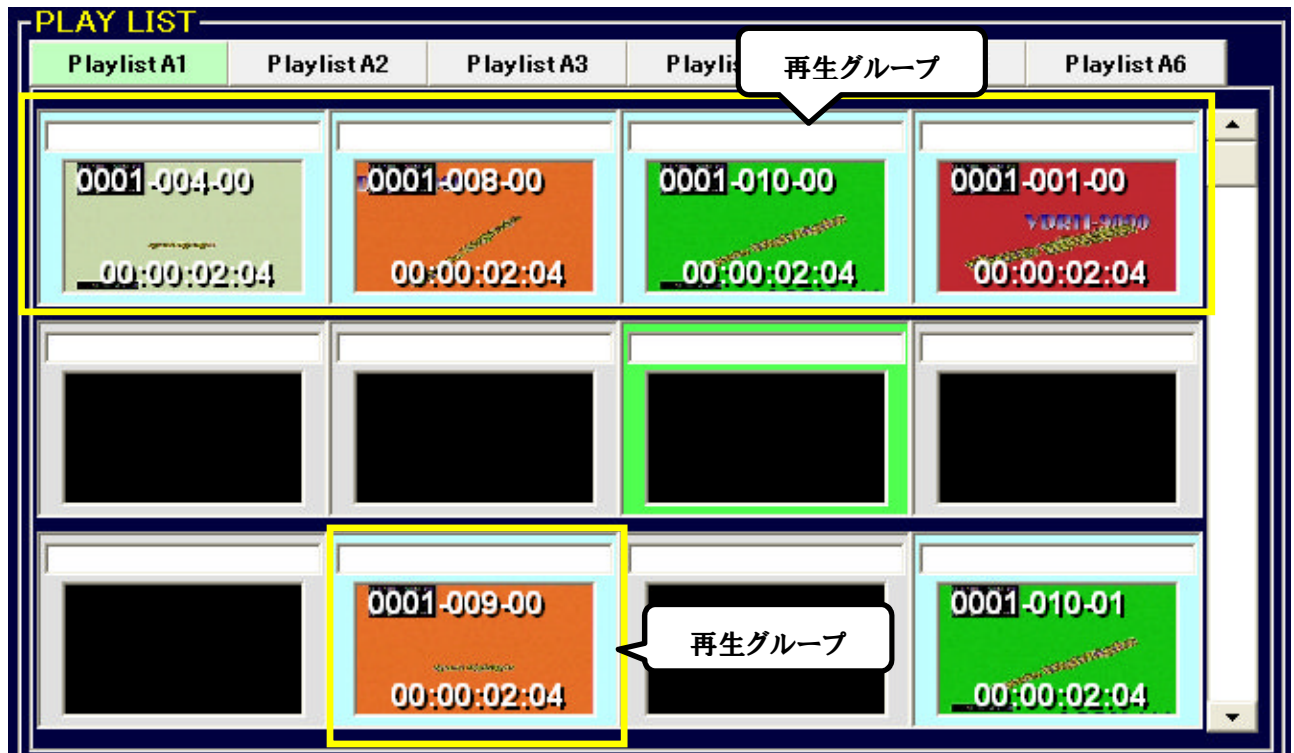
(図　57　プレイリストタブ選択・コントローラ)

[2]プレイリストタブ名称変更

プレイリストタブには、名前を付けることが可能です。

プレイリストタブを右クリックすると、入力ダイアログが開きます。タイトルを入力してください。

(図　58　プレイリストタブタイトル入力ダイアログ)

２）プレイリスト・再生グループ

本システムでは、タブグループとは別に、再生グループの概念を持っています。
プレイリストにクリップを並べる際、空欄を挟んでクリップが並べられるようになっています。
その、空欄（もしくは PL の先頭）と空欄にはさまれた一連のクリップ郡が、一つの再生グループとなります。

（図　59　プレイリスト・再生グループ）

この概念を持つことで、一連で再生をさせることや、LOOP 再生をさせるクリップのグループを、いくつも作ることが出来ます。

※プレイリストへのクリップ登録方法は、次項をご覧下さい。空欄の挿入方法は、P.54「空欄の挿入（INSERT）」の項をご参照下さい。

３ ）プレイリストの作成

プレイリストクリップの選択・登録・削除等の処理を記述します。

[1]プレイリストクリップ選択

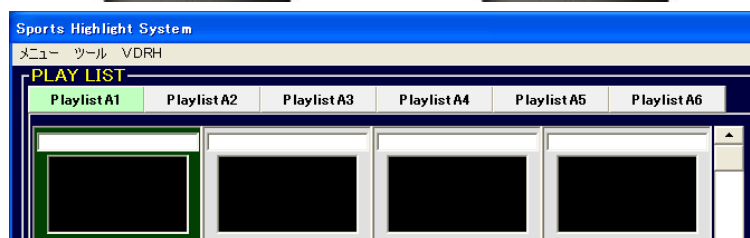
クリップの選択する方法は、以下の2通りがあります。

①プレイリストの任意のマスをクリックする。

（図　60　プレイリストクリップをマウスで選択）

選択されたクリップは、緑色で表示されます。

②コントローラの SHIFT＋「PL CLIP BACK」/「PL CLIP NEXT」を押す。

PL 選択カーソル戻し　　　PL 選択カーソル送り

（図　61　コントローラによるプレイリストクリップ選択）

コントローラで、プレイリストクリップを選択する場合は、クリップが濃い緑色で表示されます。

一度、この状態に入ると、「PL CLIP BACK」/「PL CLIP NEXT」キーのみでカーソルを移動出来ます。カーソル移動操作以外をすると、この状態は解除されます。

［2］プレイリストへのクリップの登録

作成したクリップをプレイリストに登録して、プレイリストの作成を行います。

プレイリストにクリップを登録するには、以下の2通りの方法があります。

①クリップリストのクリップをプレイリスト上にドラッグ＆ドロップする。

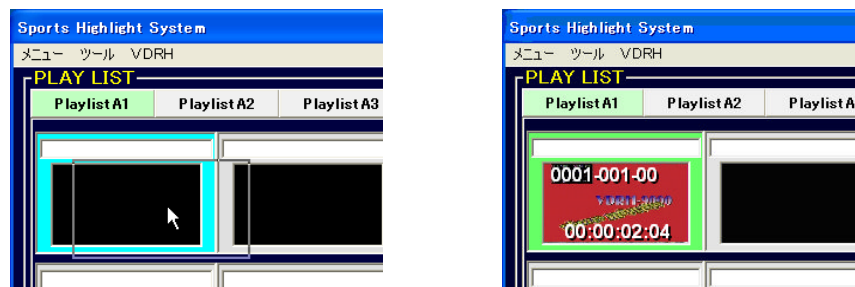
※ドラッグ＆ドロップを行う場合は、ドロップ位置によってクリップの登録方法が変わります（上書きまたは、挿入）。

②コントローラの SHIFT＋「PL INST」を押す。

それぞれの方法については、以降で詳しく説明いたします。

①ドラッグ＆ドロップによる登録方法

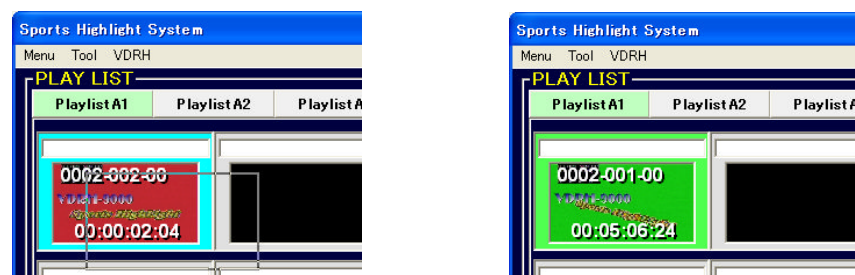
〈1〉空のマスへの登録

クリップリストのクリップをドラッグし、中央のサムネイル表示部にマウスを重ねると、マスの背景が水色で表示され、ドロップするとそのマスにクリップが登録されます。

（図　62　プレイリストにドラッグ＆ドロップ）

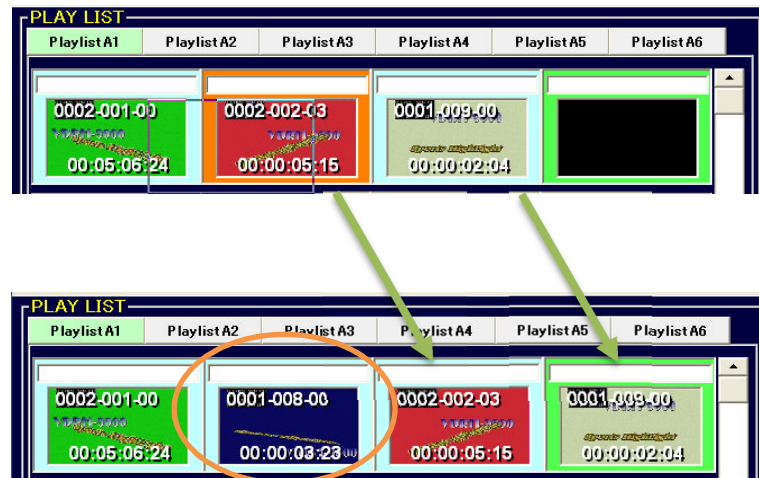
〈2〉 上書き登録

既にクリップのマスに上書き登録する場合、上記と同様に中央のサムネイル表示部にマウスを重ね、マス（クリップ）の背景が水色になった状態でドロップします。

すると、上書き登録となり、元のクリップはプレイリストから削除されます。

※クリップリストからは削除されません。

（図　63　プレイリストにドラッグ＆ドロップ）

〈3〉 挿入

クリップリストのクリップをドラッグし、マス(クリップ)の枠にマウスを重ねると、マス(クリップ)の背景がオレンジ色で表示され、ドロップするとその位置にクリップが挿入されます。

(図 64 プレイリストクリップの挿入登録)

なお、枠のどの位置にドロップするかで、挿入位置が変わります。

・クリップAとBの間に挿入されます。　　　　　・クリップBとCの間に挿入されます。

(図 65 クリップ挿入処理位置)

②コントローラから登録方法

コントローラからの登録は、挿入のみ行えます。

プレイリストから挿入する位置、クリップリストから挿入するクリップが選択されている状態で、コントローラの SHIFT+「PL INST」ボタンを押します。

クリップリストで選択していたクリップが挿入され、元々挿入先にあったクリップ含む以降のクリップがすべて一つずつ後ろへ移動します。空欄も詰められることなく、同様に後ろへ移動します。

補足)クリップの自動複製

既にプレイリストに登録されているクリップを、再度プレイリストに登録した場合、そのクリップが自動で複製されます。複製されたクリップには、枝番がインクリメントされた番号が割り振られます。

［3］プレイリストクリップの並べ替え

プレイリストに登録したクリップは、ドラッグ＆ドロップにより並べ替えることができます。

クリップリストの作成時と同様に、クリップのドロップ先の背景色によって並び替わり方が異なります。

クリップをドラッグしドロップ先のクリップにマウスを重ねたとき、マス（クリップ）の背景が水色で表示された状態でドロップすると、ドラッグしてきたクリップと、ドロップ先のクリップとが入れ替わります。

マス（クリップ）の背景がオレンジ色で表示された状態でドロップすると、ドラッグしてきたクリップが挿入され、前もしくは後ろのクリップがすべて一つずつ移動します。

※ドロップ範囲の分け方については、P.47「［2］項　-<3>挿入」をご参照下さい。

補足）クリップ Duration の黄色表示

プレイリスト上に尺が 20 フレーム以下のクリップを登録した場合、そのクリップの Duration の表示が黄色になります。

尺の短いクリップが含まれる場合、連続する5つのクリップの Duration の合計が5秒以上なるように注意してください。

補足）プレイリスト情報の登録失敗について

クリップをプレイリストに登録した際に、ジャンプ情報の登録に失敗すると、クリップの Duration が赤色で表示されます。このクリップが出来てしまった場合には、リスト下の「PL Dur」の数字の部分をダブルクリックして下さい。全てのジャンプ情報を再登録します。

（図 66 ジャンプ情報の再登録）

４）プレイリスト再生

本システムでは、プレイリストにある任意のクリップからリスト再生をかけることが出来ます。

リスト再生やリスト LOOP 再生については、再生グループ※ごとに動作します。

※再生グループについては、P.45「2)プレイリスト・再生グループ」の項をご参照下さい。

1. プレイリスト再生のスタンバイをする

プレイリストを再生する、以下の2通りの方法があります。

①リスト再生を開始したい任意のクリップをダブルクリックする

②リスト再生が開始したいクリップが選択されている状態で、コントローラの SHIFT＋「PL stdby」

③リスト再生が開始したいクリップが選択されている状態で、「VDRH 操作部」の[PL]ボタンをクリックする。

①

②

③

（図 67 プレイリスト再生準備）

開始クリップがキューアップされ黄色になり、[PL]ボタンが点灯すれば、スタンバイ完了です。

（図 68 プレイリストキューアップ完了）

2. プレイリスト再生の開始

スタンバイ完了状態からリスト再生を開始するには、以下の2通りの方法があります。

①「VDRH 操作部」の[PLAY]ボタンをクリックする。※

②コントローラの[PLAY]ボタンを押す。

※スローで開始する場合は、「VDRH 操作部」の[速度固定ボタン]か[Var]ボタンを押す。

再生が開始されると、再生中のクリップが赤色で表示されます。

再生グループの左上から右下に順に再生し、再生グループの最後まで行くと Still します。

(図 69 プレイリスト再生開始)

3. プレイリスト再生の終了

プレイリスト再生を終了するには、以下の2通りの方法があります。

①「VDRH 操作部」の[STOP]ボタンをクリックする。

②コントローラの[STOP]ボタンを押す。

（図 70 プレイリスト再生終了）

なお、再生中は[速度固定ボタン]による可変速再生、[-PLAY]ボタンによる逆再生、[FF/REW]ボタンによる高速再生、[フレーム送り]ボタンによるコマ送り再生、また、コントローラによる JOG/SHUTTLE 操作が可能です。

注意:PL 再生中に逆方向に再生した場合、そのクリップの先頭で Still します。なお、順方向の操作をすることで、PL 再生を再開することは可能です。

補足)リストループ再生

ループ設定をすることにより、再生グループの最後まで行くと再生グループの先頭まで戻って再生を続ける、ループ再生が可能になります。

ループ再生を設定するには、プレイリストの下部にある[List Loop]をクリックして、チェックを付けて下さい。

（図 71 リストループ再生をする場合）

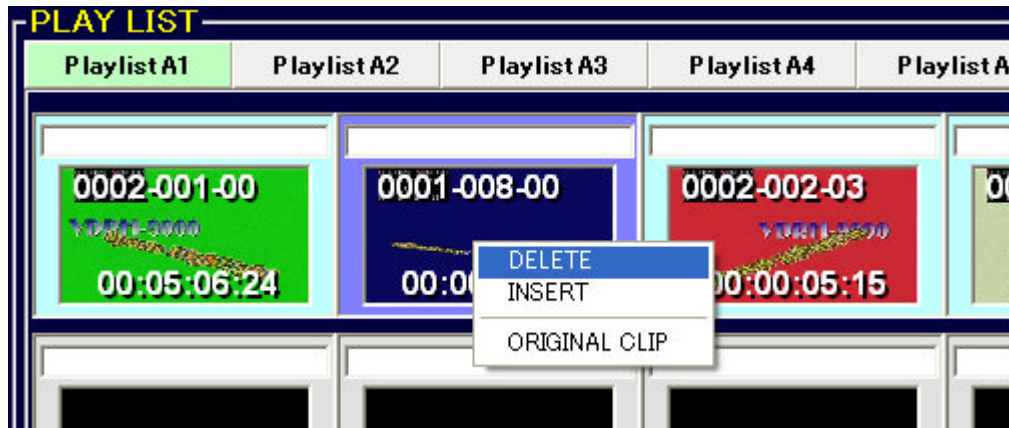
注意:ループ設定はプレイリストタブ毎に設定が必要です。

５）プレイリストクリップ削除

プレイリストクリップの削除を行う場合は、マウスからの操作のみになります。

1．削除したいクリップ上で右クリックする。クリックされたクリップは青色になります。

※SHIFT＋右クリックや、CTRL＋右クリックで、複数同時選択も可能です。

2．ポップアップメニューの[DELETE]をクリックする。

（図 72 削除選択プレイリストクリップ・ポップアップメニュー）

削除が実行され、クリップが前詰めされます。

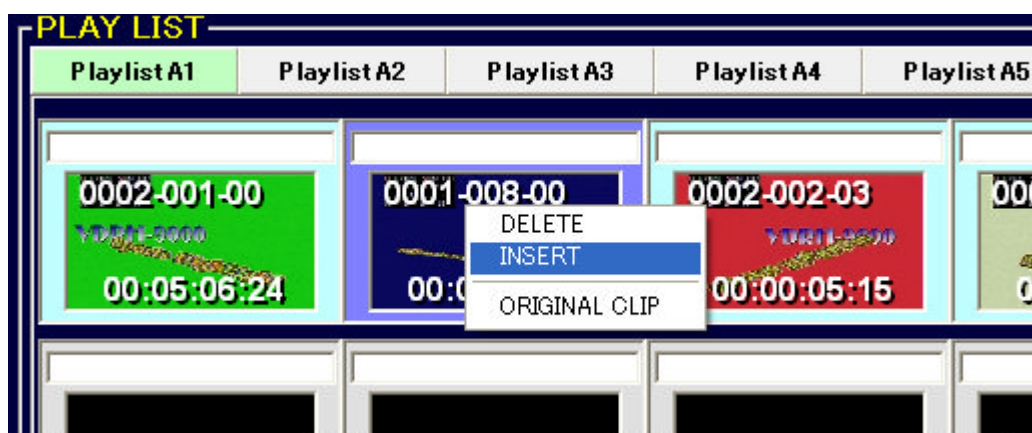
クリップリストからは、削除されません。

注意：プレイリストからクリップを削除するときは、確認のダイアログは上がりません。

６）空欄の挿入(INSERT)

P.45「2)プレイリスト・再生グループ」にある通り、空欄を挿入することで、再生グループを分割することができます。

1. 空欄を挿入したいマス(クリップ)の上で右クリックする。クリックされたクリップは青色になります。
2. ポップアップメニューの[INSERT]をクリックする。

※複数のクリップが選択されている場合は INSERT できません。

(図　73 INSERT ポップアップメニュー)

挿入が実行され、以降のクリップがひとつずつ後ろに移動します。

７）CL から PL で使用中のクリップを探す(ORIGINAL CLIP)

先に説明の通り、一度プレイリストで使用したクリップを、再度プレイリストで使用すると、自動でクリップが複製されます。したがって、プレイリストのクリップは、クリップリストのクリップとは、常に 1 対 1 の関係にあります。

プレイリストのクリップの編集を行う場合は、必ず、その元となるクリップ(ORIGINAL-CLIP)をクリップリストから、探さなければなりません。

その際に、[ORIGINAL CLIP]を使用することで、クリップリストにあるオリジナルクリップを検索することができます。

1. 検索したいプレイリストクリップ上でマス(クリップ)の上で右クリックする。クリックされたクリップは青色になります。
2. ポップアップメニューの[ORIGINAL CLIP]をクリックする。

オリジナルクリップをクリップリスト内から検索し、そのクリップを選択状態※にします。

※オプション設定により、キューアップ状態にすることも出来ます。

８ ）プレイリストの全削除

開かれているプレイリスト・タブグループのクリップを一斉に削除することが出来ます。

1．削除したいタブグループを開く。

2．「ツール」メニューから、［プレイリストの全削除］をクリックする。

選択したタブグループに登録されているクリップが全て削除されます。

（図 74 プレイリスト全削除メニュー）

10. タリー連動再生(/スロー再生)

VDRH-9000 本体の持つ GPI 機能を使って、タリー連動再生が出来ます。

[1]タリー連動再生

タリー連動再生をする場合、[タリー連動再生]のチェックボックスにチェックを入れます。

(図 75 タリー連動再生チェックボックス/標準仕様)

(図 76 タリー連動再生チェックボックス/2 台制御仕様)

この状態で、Ch-B が STOP または Still の時、VDRH-9000 本体にタリーが送られると再生を開始します。

[2]タリー連動スロー再生

※2台制御仕様では利用できません。

タリー連動スロー再生を行うには、オプションでスライダーバー表示に変更にしなければなりません。

※変更方法は、P.65「オプションメニュー」の項を参照下さい。

また、Ch-B が Still か Stop の状態である必要があります。

1. 上記同様にタリー連動再生にチェックをいれたら、スライダーバーを、任意の速度にあわせる。

(図 77 スライダーバー)

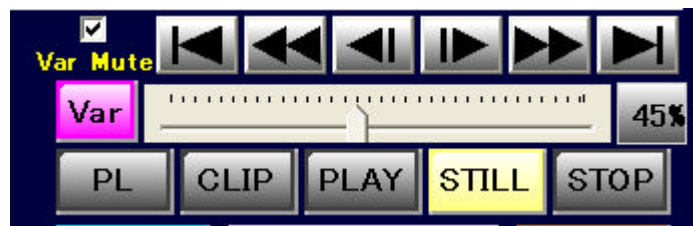
２．「VDRH 操作部」の[スロー再生]ボタンを押します。

※タリー連動再生にチェックが入っていないと押せません。

(図　78　タリー連動再生/スロー再生)

この状態から、スロー再生のみを解除する(x1　再生スタンバイに変更する)場合、[STILL]ボタンを押して下さい。

３．[Var]ボタンが点灯し、スライダーバーが固定されます。

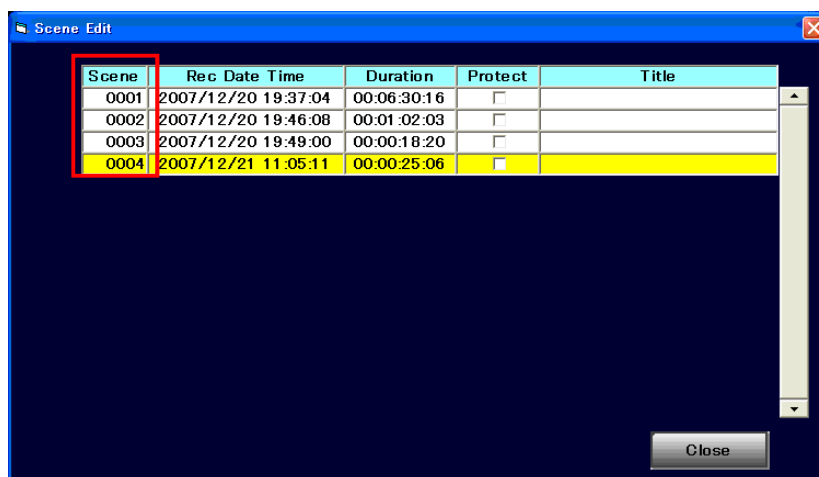
この状態で、VDRH-9000　本体にタリーが送られると、スライダーバーで設定した速度で再生を開始します。

(図　79 Var 点灯/スライダー固定)

11. シーンチェンジ

収録済みのシーンからクリップを作成する場合、シーンチェンジ機能を使って、シーンを呼び出す必要があります。シーンチェンジの方法は以下の通りです。

1.「VDRH」メニューから[シーンチェンジ]を選択。

(図 80 シーンチェンジメニュー)

2. シーン一覧ウィンドウが表示されるので、切り替えたいシーン番号をダブルクリックする。

(図 81 シーン情報ウィンドウ)

3. 再生(スタンバイ)中のシーンが黄色で表示されるので、「クリップ情報部」や「キャプチャ部」で、呼び出したシーンの先頭にキューアップされていることを確認し、[CLOSE]をクリックし、このウィンドウを閉じる。

注意：初期設定状態では、クリップリストは「In 点 TC→シーン No.→クリップ No.→枝番」の順でソートされるため、先に収録中シーンからクリップを作成していた場合、クリップの表示順番が入れ替わります。
ソートの順番は、「VDRH」メニュー→「オプション」から変更できます。詳しくは、P.65「オプションメニュー」の項をご参照下さい。

補足）シーンプロテクト

シーンチェンジ画面では、シーンのプロテクトを設定することもできます。
シーンプロテクトをかけると、コンプレス画面※で選択することが出来なくなります。
シーンのプロテクトをかけたい場合は、[Protect]のチェックボックスにチェックをいれて下さい。

Scene	Rec Date Time	Duration	Protect	Title
0001	2007/12/20 19:37:04	00:06:30:16	☑	
0002	2007/12/20 19:46:08	00:01:02:03	☐	

（図 82 プロテクトチェック）

注意：シーンのプロテクトは、アプリケーションからの操作に対するプロテクトのみで、VDRH-9000 側の操作に対してはプロテクトがかかりません。

補足）シーンタイトル

同じくシーンチェンジ画面では、シーンのタイトルを入力することができます。
Title 欄をクリックし、タイトルを入力して Enter キーで確定してください。

Scene	Rec Date Time	Duration	Protect	Title
0001	2007/12/20 19:37:04	00:06:30:16	☑	風景映像
0002	2007/12/20 19:46:08	00:01:02:03	☐	ニュース素材
0003	2007/12/20 19:49:00	00:00:18:20	☐	

（図 83 タイトル入力）

12. クリップリカバー

本システムで使用するクリップ情報は、VDRH-9000 本体に記録されています。

クリップリカバーを実施すると、アプリケーションの保持しているクリップ情報を削除し、VDRH-9000 に記録されているクリップ情報を取得することができます。

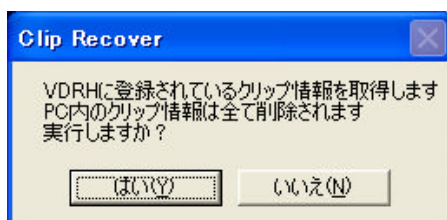
クリップリカバーを行う場合、以下の点にご注意下さい。

- **プレイリストの情報が全て削除されます。**
- **クリップのクリップ番号 02 以降、及び枝番 01 以降が存在する場合、クリップの作成順に、クリップ番号が振りなおされます。(枝番はすべて 00 になります。)**
- **シーンのタイトル、クリップタイトル、サムネイル、プレイリストタブ名称は、削除され、復旧できません。**
- **再生や収録中に行なうと、クリップ情報が正常に取得できない場合があります。必ず、停止状態で実施して下さい。**

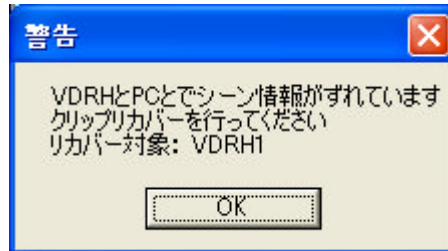
クリップリカバーを行う方法は、以下の通りです。

1.「VDRH」メニューから[クリップリカバー]をクリックする。

(図 84 クリップリカバーメニュー)

2. 確認ダイアログが表示されるので、実行する場合は[はい]を、実行しない場合は[いいえ]をクリックしてする。

(図 85 クリップリカバー実行確認ダイアログ)

注意　「・・・シーン情報がずれています」警告メッセージについて

本システムの使用中に下記の警告が表示された時は、本体とPCのシーン情報がずれている可能性があります。

（図 86 クリップリカバー警告）

この警告が表示される原因とその場合に必要な操作は、以下のようなものがあります。
（リカバーを実施する場合、前頁の注意事項にご留意下さい。）

- 本システムを使用終了後、VDRH-9000を本体メニューからFormatした。
  ⇒アプリケーションに存在するクリップが、本体に存在しないために警告を発しています。
  クリップリカバーが必要です。
  クリップリカバーを行なうことで、アプリケーションのクリップ情報がクリアされます。

- 本システムを2式使用していた場合に、PCかVDRH-9000を入れ換えた。
  ⇒アプリケーションに存在するクリップが、本体に存在しないために警告を発しています。
  クリップリカバーが必要です。
  クリップリカバーを行なうことで、VDRH-9000本体からクリップ情報を取得します。

- PC側で収録を終了したはずが、本体側でシーン情報の書き込みエラーが発生した。
  ⇒本体の障害です。アプリケーションを再起動しても同様の警告が表示される場合は、クリップリカバーが必要です。
  再度、同様のケースで警告が発生される場合は、弊社サポートまでご連絡下さい。

- 収録停止時、本体には収録されているのに、PC側がシーン情報を更新できていない。
  ⇒PC側の障害です。クリップリカバーが必要です。
  再度、同様のケースで警告が発生される場合は、弊社サポートまでご連絡下さい。

- REC動作中に、PCを再起動した場合。
  ⇒REC中シーンのシーン番号の処理の関係で、警告が発せられます。
  クリップリカバーは必要ありません。

13. コンプレス

必要のなくなった素材(シーン)は、コンプレス作業により VDRH-9000 から消去することで、録画残時間を増やすことが出来ます。

コンプレスを行う方法は、以下の通りです。

1.「VDRH」メニューから[コンプレス]をクリックして下さい。

(図 87 コンプレスメニュー)

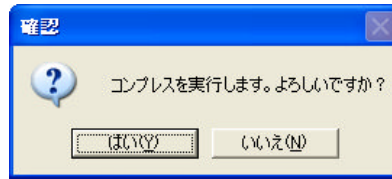
2.コンプレス用のシーン一覧が表示されるので、コンプレスで削除したいシーンの[Del]のチェックボックスにチェックを付ける。

(図 88 削除シーンチェック)

※ 灰色表示になっているシーンは、シーンプロテクトがかけられているか、プロテクトされたクリップが含まれるシーンです。これらのシーンは、削除できません。

3.[コンプレス実行]ボタンをクリックする。

コンプレスを実行しない場合は、[Close]ボタンをクリックして下さい。[Close]をして閉じた場合、DEL 情報はクリアされます。

4. [コンプレス実行]ボタンをクリックすると、実行確認ダイアログが表示されるので、実行する場合は[はい]を、実行しない場合は[いいえ]をクリックする。

(図 89 コンプレス実行確認ダイアログ)

注意 **コンプレスの作業時間にご注意下さい！！**

コンプレス作業とは、削除するシーンデータエリアの上に、残すデータを上書きして、全体のデータを前詰めにする作業です。そのため、前詰めするデータが多いほど作業時間が必要になります。作業時間の目安は、移動するデータ時間の約 8 割です。

(例①)下記の場合、シーン 5 と 6 が移動対象です。

シーン 5 と 6 の Duration の合計が約 14 分なので、コンプレスの作業時間は 11 分少々となります。

Del	Scene	Rec Date Time	Duration	Title
☐	0001	2007/12/20 19:37:04	00:06:30:16	風景映像
☐	0002	2007/12/20 19:46:08	00:01:02:03	ニュース素材
☐	0003	2007/12/20 19:49:00	00:00:18:20	
☑	0004	2007/12/21 11:05:11	00:00:25:06	
☐	0005	2007/12/26 14:53:13	00:00:08:22	
☐	0006	2007/12/26 15:17:37	00:13:50:09	

(図 90 コンプレスチェック例 1)

(例②)下記の場合、移動するデータがないので、即座に終了することになります。

Del	Scene	Rec Date Time	Duration	Title
☐	0001	2007/12/20 19:37:04	00:06:30:16	風景映像
☐	0002	2007/12/20 19:46:08	00:01:02:03	ニュース素材
☐	0003	2007/12/20 19:49:00	00:00:18:20	
☐	0004	2007/12/21 11:05:11	00:00:25:06	
☐	0005	2007/12/26 14:53:13	00:00:08:22	
☑	0006	2007/12/26 15:17:37	00:13:50:09	

(図 91 コンプレスチェック例 2)

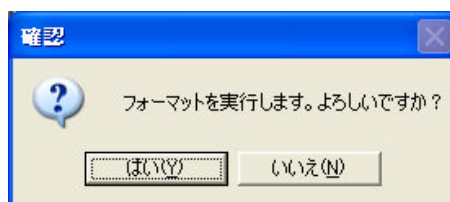
14. フォーマット

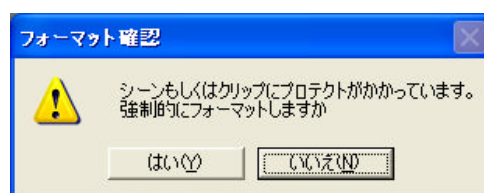
フォーマットを行うと、VDRH-9000 から素材データを完全に消去されます。

フォーマットを行う方法は、以下の通りです。

1.「VDRH」メニューから[フォーマット]をクリックする。

(図　92　フォーマットメニュー)

2. フォーマット実行確認ダイアログが表示されるので、実行する場合は[はい]をクリックする。

(図　93　フォーマット実行確認ダイアログ)

※　シーンかクリップにプロテクトがかかっていた場合は、再度確認のダイアログが表示されます。実行する場合は[はい]を、実行しない場合は[いいえ]をクリックして下さい。

(図　94　フォーマット確認ダイアログ 2)

15. オプションメニュー

「VDRH」メニューからオプションをクリックすると、オプション設定画面が開きます。
各メニューは、以下の通りです。

(図 95 オプションメニュー)

【システム系1】

〔オーディオ入力〕

・・・音声の入力信号形式を選択します。

〔TIMECODE〕

・・・タイムコードのモードを選択します。オプションメニューを OK で閉じるか、[TC_SET]を押すと、変更が適応されます。

〔TIMECODE PRESET〕

・・・TC を入力し SET を押すと、TC が設定されます。
(TIMECODE の設定が、REC RUN/FREE RUN モードの場合のみ有効)

【システム系2】

〔表示言語〕

・・・表示言語を切り替えます。アプリを再起動した後に変更されます。

【編集系1】

〔クリップタイトルの背景色〕

・・・ タイトル リックすると、色パレットが表示されるのでお好きな色を選択します。

〔クリップWクリック〕

・・・CL のクリップをWクリックした時の動作を選択します。
区間再生キューアップ:区間再生スタンバイがかかります。
In 点キューアップ:Goto In の動作をします。

〔Out 点からのクリップ作成〕

・・・クリップの新規作成時に、Mark Out からの作成を許可するかしないかを選択します。

〔クリップソート〕

・・・CL のクリップリストのソート方法を変更します。

Start TC:In 点 TC→シーン No.→クリップ No.→枝番

クリップ番号順:クリップ番号→シーン番号→枝番

【編集系2】

〔Original Clip〕

・・・PL の右クリックメニュー「Original Clip」の動作を選択します。

選択のみ:CL のオリジナルクリップを検索し、選択状態にする。

In 点キューアップ:CL のオリジナルクリップを検索し、Goto In をかける。

〔Duration 入力時の基準〕

・・・Duration を直接入力する場合の基準点を選択します。

選択切り替え:Duration ボタンで、In TC 起点/Out TC 起点を切り替えます。

In 点固定:In TC 起点のみに固定します。

〔Modify/Add 時のサムネイル変更〕

・・・Modify や Add でクリップの修正/複製等をした時に、In 点 TC の映像からサムネイルを取得しなおすか選択をします。

〔クリップ完成後のフォーカス移動〕

・・・クリップ完成後のフォーカスの移動を設定します。

移動しない:完成したクリップ上から移動しません。ただし、一番後ろの未完成クリップを完成させた場合にのみ、隣の空クリップへ移動します。

空クリップへ移動する:どこのクリップを完成させた場合でも、必ず、空クリップへ移動します。

【再生系1】

〔Variable 再生〕

・・・Variable 再生の表示モードを切り替えます。

〔Var Mute〕

・・・メイン画面で MUTE 設定していない場合のスローでの音声出力を選択します。

FADE：スロー再生時に、立ち上がり/立ち下がりに FADE をかけて出力します。

As Is：スロー再生時に、カット IN/OUT で出力します。

〔Shuttle Ring Mode〕

・・・コントローラの SHUTTLE RING の動作を選択します。

FF/REW：SHUTTLE LIKE に動作します。

Variable：T-bar LIKE に動作します。左右の一番端まで回すと、±100％で再生します。

【再生系2】

〔PLAY リストスクロール位置の保存〕

・・・プレイリストを切り替える時、スクロール位置をプレイリストごとに保持するか、移動されたスクロールバーの位置で開くかを選択します。

〔プレイリスト　リメイン時間表示〕

・・・プレイリスト再生時に、リストのトータル REMAIN の他に表示する情報を選択します。

Duration：クリップ単体の REMAIN 時間を表示します。

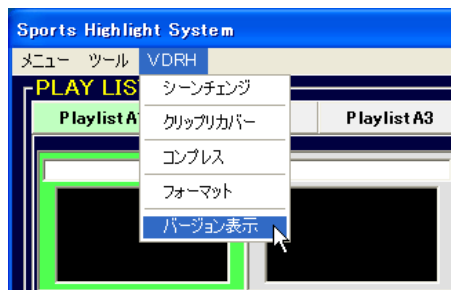
再生時間：x1倍速の時は、クリップ単体の REMAIN 時間を表示します。

Variable 再生時は、その速度でも再生残時間を表示します。

(SHUTTLE 時も反映する)にした場合、Var/Shuttle 再生時に、その速度でも再生残時間を表示します。

16. バージョン表示

本システムのバージョンを表示します。

「VDRH」メニューから[バージョン表示]をクリックして下さい。

(図 96 バージョン表示メニュー)

バージョン情報ウィンドウが表示されます。

アプリケーションのバージョン(Software Version)と、VDRH-9000 のファームウェアバージョン(Firmware Version CPU1～3)が表示されます。

(図 97 バージョン情報ウィンドウ)